

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
第5学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人

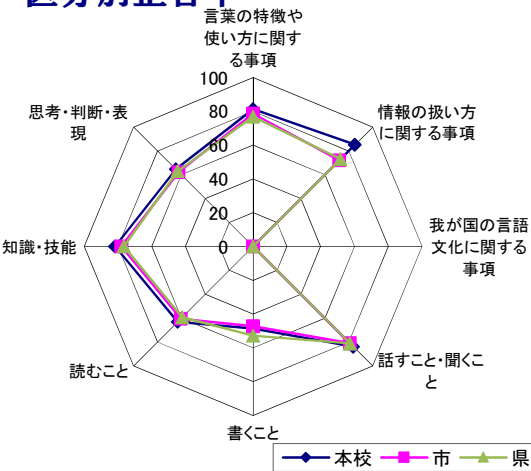
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.3	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	85.2	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	83.8	81.0	81.1
	書くこと	48.6	47.2	52.8
	読むこと	63.2	60.5	59.3
観点	知識・技能	81.7	78.0	76.5
	思考・判断・表現	64.7	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

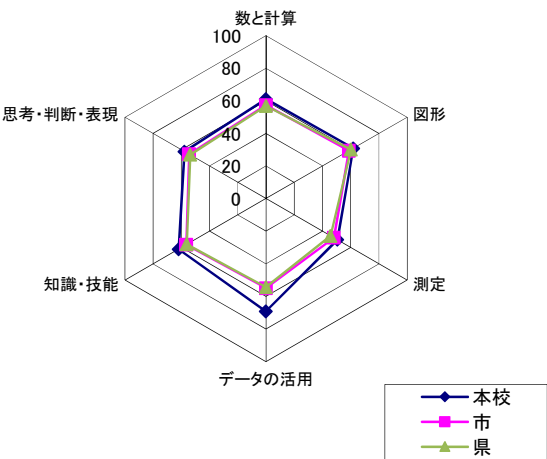
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○漢字を正しく読むことの平均正答率は全て市の平均正答率より高く、比較的できていた。文章を書く際、習った漢字は使うよう指導したり、読書を普段からよく取り組ませたりしていることから、漢字の読みに関しては比較的定着しているものと考えられる。 ●漢字を正しく書くことの平均正答率が市の平均より低く無回答も多く、課題が見られる。	・今後も、反復練習やデジタル教科書の活用、タブレット学習などを継続するとともに、既習の漢字を使うよう支援し、習熟を図る。 ・漢字の学習については、漢字の意味や成り立ちなどを調べさせたり、熟語集めや短文作りを取り入れたり、他教科と関連付けて指導したりするなど、自発的な取り組みを促すよう働きかける。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○国語辞典の使い方をよく理解している児童が多く、8割以上の児童が国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶことができていた。国語辞典を活用した意味調べを宿題として出すなど、定着するまで指導してきた成果と考えられる。	・各単元において国語辞典を用いた調べ学習を奨励するとともに、文脈に沿った最適な意味を国語辞典から選べるように、クラス全体で答え合わせをするような機会を設ける。 ・単語を別の言葉で言い換えたり説明したりするなど、言葉のイメージを広げるような働きかけを行う。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることや、司会者の話し方の工夫を捉えることは比較的よくできていた。互いの考えを伝える話し合い活動を取り入れてきた成果と考えられる。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることに課題が見られる。	・今後も、グループや学級全体で話し合い活動を積極的に取り入れ、実践の場を設ける。 ・話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるよう、メモを取ったり質問したりするなど話の聞き方を指導する。 ・参加者に発言を促したり、共通点や相違点を確認したり、話し合った内容をまとめたりするなど司会者の役割を確認し、実践できるよう支援する。 ・「話すこと・聞くこと」の評価問題実施後の見直しの際に、話し手が伝えたいことの中心や司会者の話し方の工夫、話し手の発言を受けて司会者がどうつないでいくのかなどにポイントを絞り、確認を行う。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○自分の考えを明確にして文章を書いたり、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことの正答率が市の平均より高い。授業のふり返りや単元のまとめなど、自分の考えをまとめて文章で表す機会を取り入れてきた成果と考えられる。 ●段落の役割について理解し、作文を書く上でのきまりを守って2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。	・今後も、いろいろな場面で条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設け、表現力を育てていく。 ・文章を書くことが苦手な児童には、文章の型を提示し、それに沿って文章を書くよう支援する。 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係性に注意したりして、文章を書く題材を取り入れる。 ・ICTを活用し、学習活動の場を工夫する。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○登場人物の気持ちや場面の様子、内容について、叙述を基に捉えることの正答率が市の平均より高い。読書活動を推進し、読んで理解する力に繋げるよう指導してきた成果と考えられる。 ●叙述を基に指示語の内容を捉えることに課題が見られる。	・今後も、読書活動を推進し、読んで理解する力に繋げるようにする。 ・指示語を使って文章を書き換えたり、指示語が指す内容を当てる活動をしたりするなど、実践的な活動を多く取り入れ、指示語に対する理解が深まるよう支援する。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.1	57.4	56.9
	図形	61.8	58.7	60.1
	測定	50.5	48.1	45.7
	データの活用	69.2	54.9	54.3
観点	知識・技能	61.9	56.6	56.2
	思考・判断・表現	57.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

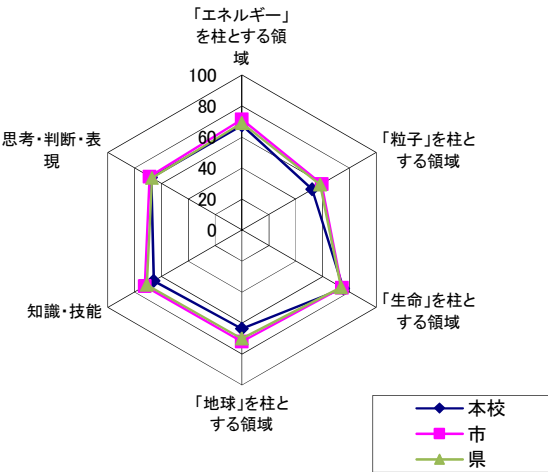
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて高い。 ○少数のしくみはよく理解ができている。これは、升や数直線を使って学習を繰り返し行ってきた成果であるとする。 ●乗法の分配法則や例をもとに同じように説明することに課題が見られた。()を使った計算や＝で式を結ぶということが理解できていない。	・数量の計算に關しての練習問題で復習するときなど、交換法則、結合法則、分配法則を用いて立式したり計算したりすることで、繰り返し法則を確認するようにする。 ・数字が変わっても再現をすることができるよう、反復した学習を行う。 ・授業の中で他者の考えと友達の考えを比べたり、友達の考えを再生、換言させたりするなどの言語活動を行う。
図形	平均正答率は、市の平均と比べてやや高い。 ○二等辺三角形の性質がよく理解できている。これは、二等辺三角形の意味や性質を理解する際には、定規やコンパス、紙を折るなどの活動を豊かに行った成果であるとする。 ●二等辺三角形になる点を選ぶという問題に課題が見られた。	・朝の学習の時間に、図形に關する既習事項を取り入れていく。また、分からない問題については、実際に紙を折ったり切ったりして確かめるようにする。 ・ICT等を活用しながら、図形を自分で作る経験をさせる。 ・教科書の問題だけだと、「底辺は下」という意識が無意識のうちにうついてしまう。そのため、様々な角度から図形を見るという指導をしていく。
測定	平均正答率は、市の平均と比べてやや高い。 ○はかりの目盛りを読み取り、重さを答えることができていいる。これは、実際に秤を使って計測する学習を繰り返し行ってきた成果であるとする。 ●地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求める問題に課題が見られた。	・今後も、実際に調べたり、体験したりするなど、実感的にとらえられるよう体験活動を取り入れるようにする。 ・mをkmに変換したり、またkmをmに変換したりする活動を繰り返し指導する。また、答えの求め方については、友達同士で伝え合う活動を取り入れることで、筋道を立てて解決していく考え方が身に付けられるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて高い。 ○表から分かることを選ぶ問題正答率が高いことから、表の読み取りはできている。これは、表の読み取りを繰り返し行ってきた成果であるとする。 ●棒グラフを比べて、そのよさを考えて選ぶという問題に課題が見られた。	・棒グラフを取り上げる際には、そのよさがわかるよう複数のグラフを比べる学習活動を取り入れる。 ・積み重ねた棒グラフの意義についてあまり理解していない。そのため、授業では縦軸、横軸がそれぞれ何を表しているのかに着目し、棒グラフで表すことの良さについて考えられるようにしていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.6	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	52.4	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	75.5	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	63.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	65.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	67.7	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○風が強くなると、ものを動かすはたらきが大きくなることについて理解している。風の受け皿のある教材を用いて、様々な風の強さについて試行錯誤しながら実験を行い、一人一人に体感させた成果であると考えられる。 ●電気の通りの名称等、電気回路についての理解について課題が見られる。	・単に名称を暗記させるだけでなく、導線、乾電池、豆電球などの基本的な部品を実際に手に取り、つなぎ方を変えながら回路を作成する活動をさせたり、豆電球が点灯しない回路や複数の部品を使った回路など様々なパターンを試させる活動を設けたり、言葉だけでなく、図や記号を用いて回路のつながりを視覚的に表現する活動を取り入れたりしながら、「電気の通り道」が途切れると電気が流れないという本質的な原理を、実験を通して確実に理解させていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想しながら、自分なりの言葉としてまとめることに課題が見られる。	・「予想」「実験方法」「実験結果」「考察」の項目を意識しながら、それぞれの段階で児童が自分の考えを整理できるようにしたり、「予想通りだったかな？」「どうしてそうだったのかな？」といった問いかけをすることで、児童が自ら考察する活動に取り組んだり、異なる予想を立てた児童の意見を共有させたり、話し合いを通して複数の視点から実験結果を学級全体でまとめる活動に取り組んだりする活動を通して、単に「重さは変わらない」という考察のまとめ学習することはもとより、児童が立てた予想と実際の実験結果を論理的に結びつけまとめる力を育んでいく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○観察した複数の植物に共通のつくりを比較し、その共通点について、自分なりの言葉で考えをまとめることができている。実際に植物を育てながら、観察カードに記録し、繰り返し体のつくりについて確認した成果であると考えられる。 ●モンシロチョウのたまごと幼虫の成長の様子を踏まえながらのモンシロチョウの育ち方についての理解について課題が見られる。	・モンシロチョウの一生を単なる知識として理解させたり、実際に観察を通してその変化を体感させたり、個々の観察結果について単元を見通した授業展開を工夫したりすることで、モンシロチョウを総合して「育ち方」という理科的視点のもと、自分なりの言葉でまとめられるように取り組んでいく。モンシロチョウの卵、幼虫、さなぎ、成虫を実際に飼育し、定期的に観察する機会を設けたり、「なぜ、幼虫はさなぎになったんだろう？」「卵から成虫になるまでに、どんな変化があったかな？」といった問いかけを通して、児童が自ら考察できるようにしていく活動に取り組んでいく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○太陽と地面の様子について、影が太陽の反対側にできることを理解している。実際に影踏み遊びを体験させた成果であると考えられる。 ●温度計の使い方について、正しい読み方を選択することができない児童が多い。実験に関する技能に課題が見られる。	・温度計の正しい読み方を単なる知識としてではなく、実験技能として確実に定着させていく。実際に水や砂など、様々なものの温度を測定する活動を通して、温度計を使うことへの興味関心を高め、温度計の目盛りを拡大したシートなどを作成し、目盛りを読み取る練習を繰り返し取り組んだり、温度計の「液だまりに触れない」「目線を液面と水平にする」といった使い方を児童と確認したりしながら定着させていく。また、グループで同じものの温度を測定させ、測定値が異なる理由について話し合わせたり、「今日の気温は何度かな？」といった日常的な問いかけに温度計を使って答えさせたりするなど、温度計の正しい使い方を学ぶだけでなく、その技能が実験結果の正確性を左右することを理解させていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は学習のことについてほめてくれる。」の設問で、肯定的な回答をした児童の割合は9割を超え、県の平均よりも高い状況であった。日頃の学級経営・学習指導において、担任が児童の頑張りに目を向け、認め、励ます指導を行ってきたことが結果につながっていると考ええる。今後も、自己肯定感を高めていける声掛けをし、認め、励ます指導を継続して行っていく。

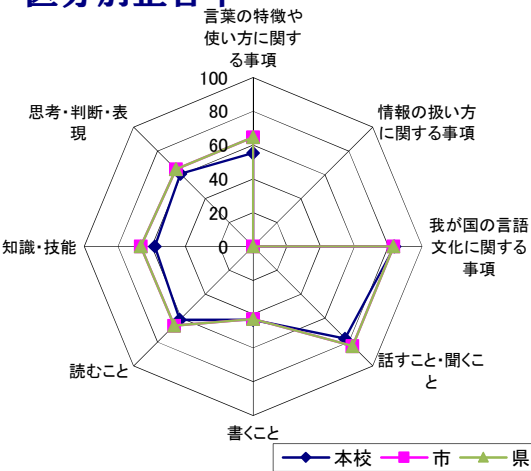
○「学校の宿題は、自分のためになっている」、「学習で身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の設問で、全員が肯定的に回答し、県の平均を超えていた。すべての児童が学習することの大切さを実感している。学習内容の定着にも引き続き力を入れ、学習することの必要性を感じると同時に、分かる楽しさやできる喜びを感じさせらるよう、授業展開の工夫を継続して行っていく。

●「家で自分で計画を立てて勉強している。」、「家で、学校の授業の予習をしている。」、「家で、学校の授業の復習をしている。」、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」等の設問で肯定的な回答をした児童の割合は県の平均より低かった。宿題以外の家庭学習の習慣に課題が見られる結果となった。自主学習の内容・方法を例示したり、学習意欲を高めるための声掛けをしたりするなど、家庭と連携しながら学習習慣の見直しを図っていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	55.3	64.7	64.7
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	83.7	83.1	83.1
	話すこと・聞くこと	77.0	83.3	83.3
	書くこと	43.4	42.8	42.8
	読むこと	61.5	66.1	66.1
観点	知識・技能	58.2	66.5	66.5
	思考・判断・表現	60.8	64.6	64.6



★指導の工夫と改善

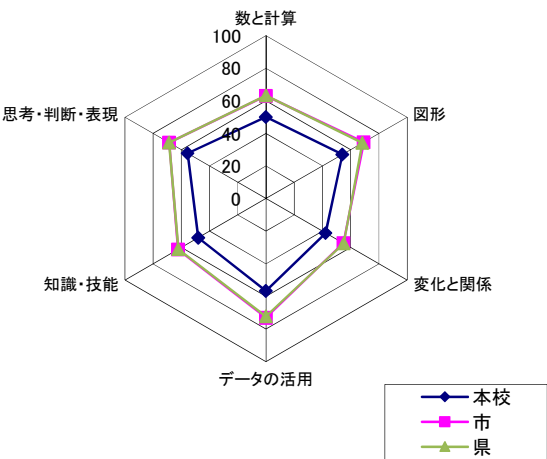
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読むことがよくできている。 ○文を読み、気持ちを表す語として適する語を選ぶことができています。 ●熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉えることに課題がある。	・今後も漢字練習は家庭学習で取り組ませるなど繰り返し行い、定着させる。短文づくりなどを取り入れながら漢字の習熟を図る。 ・今後も、人物の気持ちや変化に注目して読む力を育てるとともに、その気持ちにふさわしい言葉を自分の語彙から選び取ることができるように指導していく。 ・具体的な文脈の中で熟語に触れる機会を増やし、意味の類推や使い方の理解を深められるよう指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることがよくできている。日頃から国語の授業で言葉の使い方に注目した学習や、朝の読書活動で多様な表現に触れてきたことの成果であると考えられる。	・今後もことわざを含めた多様な表現に親しむ機会を意図的に設け、文脈に応じた使い方を意識できるように指導していく。 ・自分の考えや気持ちを適切な表現で伝える力を伸ばすために、発表や文章作成の場面でもことわざの活用を促していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問では、市全体より2.3%低く、市や県全体と近い正答率となった。様々な学習や活動において話し合い活動を積極的に取り入れている成果であると考えられる。 ●話し手の内容を理解し、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめることに課題がある。	・今後も、様々な学習や活動において話し合い活動を積極的に取り入れ、相手の考えを聞いて、相手の考えの良い点や自分の考えとの相違点を考えながら聞くような場を設ける。 ・「話すこと・聞くこと」の評価問題実施後の見直しの際に、話し手が伝えたいことの中心や司会者の話し方の工夫、話し手の話を受けて司会者がどうまとめて他の人につなげていくかなどを気付かせるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○アンケート調査の結果を表す図を読み取り、自分の考えを文章で表すことが比較的できている。社会科や総合的な学習の時間などでも、情報を活用して考えをまとめる活動を取り入れている成果であると考えられる。 ●指定された長さで文章を書いたり、段落ごとに内容の中心を明確にしなが文章を書いたりすることに課題がある。	・今後も、いろいろな場面で条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設け、表現力を育てていく。 ・書く内容の中心が明確になっているか、内容のまとまり毎に段落ができているかなど、段落相互の関係に注意して文章を推敲できるよう支援していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○文章を読んで、登場人物の性格や気持ちの変化について想像することができている。描写に着目しながら感じたことや考えたことなどを伝え合い、読みを深める活動を取り入れてきた成果であると考えられる。 ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有することに課題がある。	・今後も、文章を読んで感じたことや考えたことをみんなで共有し、読解力を高める活動に取り組ませていきたい。 ・登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている描写にも着目し、想像を豊かにしながら読むことができるよう支援していく。 ・文章を読んで感想や考えを持つことに加え、それらをまとめる活動に力を入れていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.1	63.0	63.3
	図形	54.1	69.2	68.3
	変化と関係	42.2	54.8	55.0
	データの活用	56.6	73.1	72.3
観点	知識・技能	48.0	62.3	62.1
	思考・判断・表現	55.6	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

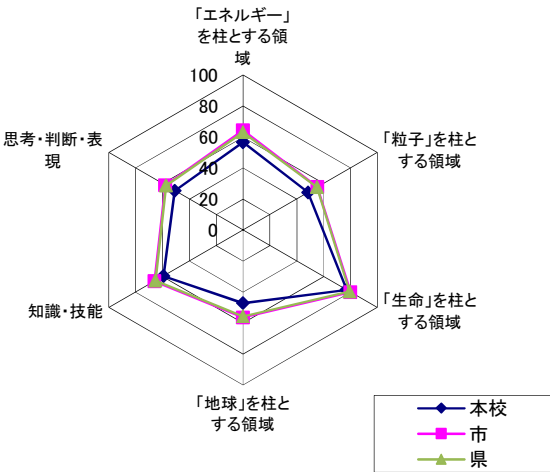
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○23億が、23万の何倍かを答える問題が比較的できている。大きな数の練習問題に取り組む過程の中で、位取りの仕組みを理解しながら練習問題に正確に取り組んだ成果であると考えられる。 ●小数第一位÷整数＝小数第一位や、小数第二位×整数等、小数のかけ算・わり算の計算方法の理解に課題が見られる。	・児童に計算の過程を詳細に記述する習慣を徹底させていく。単に答えを導き出すための手順をなぞるだけでなく、式の意味を論理的に考察する力を養いたい。児童が「なぜこの式になるのか」「この数字は何を意味するのか」を常に考えながら学習を進めることで、児童自らのミスの原因を深く分析することで、確実な基礎学力として定着させていく。また、筆算、中でも割り算における「商を立てる位」の概念的な理解を深化させることに力を入れていく。多くの児童がつまづきやすい位取りの誤りを未然に防ぐため、児童が視覚的に位取りを捉えられるような指導法を工夫し、商を立てる位を指で隠す、あるいは商を立てられない位に仮の記号を記述させるなど、児童が直感的に理解できる補助的な手法を積極的に取り入れていく。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式の立て方やについて課題が見られる。	・児童が算数に親しみ、主体的に学習に取り組めるよう、実物を用いた算数的活動を充実させていく。特に、三角定規、分度器、コンパスといった道具を実際に使う機会を十分に確保する。単なる計算ではなく、手を動かし、目で見て考える経験を積み重ねることで、図形に対する感覚を養っていく。また、道具を使って作図する活動と、それを言葉や式で表現する学習を密接に連携させながら取り組んでいく。例えば、「三角定規を組み合わせてできた角」について、実際に定規を置いて形を作り、その角度を測る活動を行う。その上で、「なぜこの式になるのか」を児童自身に説明させることで、立式の根拠を明確に理解できるように指導していく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係の式の立て方や、割合が基準量の何倍で求められるかについての理解に課題が見られる。	・具体物を使った思考活動に取り組んでいく。具体的には、教室で実際に水槽に水を注ぎ、水の量と時間の変化を観察させたり、おはじきやブロックを使って物の個数と代金の関係を再現させたりといった活動を授業に積極的に取り入れる。これらの活動を通して、子どもたちは変化の様子を五感で捉え、「数量がどのように変化するか」を実感として理解できる要指導していく。また、児童には、なぜその変化が起こるのか、「どうしてこの式になるのか」を自分の言葉で筋道を立てて説明する機会を意図的に設定する。これにより、ただ単に公式を覚えるのではなく、論理的な思考力を養い、数量の関係を深く理解し、それを正確に式として表現する力を着実に身につけさせていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●折れ線グラフの特徴を理解し、傾きから変わり方についての読み取り方や、二次元の表の意味を理解し、傾向を読み取ることに課題が見られる。	・二次元の表を扱う問題に触れる回数を増やしていく。単に問題を解くだけでなく、身近な事柄(クラスの好きな食べ物と性別、気温と服装など)を二次元の表に整理する活動を取り入れる。これにより、表の縦軸と横軸が何を表しているのか、交差する部分がどのような意味を持つのかを、体験を通して理解できるよう指導していく。また、表を完成させるだけでなく、その表からどのようなことがわかるのか、どのような傾向があるのかを自分の言葉で説明する活動を充実させていく。「このデータからわかることを友達に教えてみよう」といった対話的な学習を取り入れることで、情報の読み取り方や分析の視点を養っていく。

--	--	--

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	56.6	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	48.4	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	77.2	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	47.2	56.4	55.8
観点	知識・技能	59.3	66.0	65.3
	思考・判断・表現	50.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○乾電池のつなぎ方とその名称の理解がよくできている。乾電池2個を使って2種類の回路を作り、それぞれのつなぎ方の名称を繰り返し確認した成果が表れている。 ●回路に電流が流れない原因を見つけることに課題が見られる。	・今後も見通しをもって観察・実験等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。 ・理科の学習で使われる用語を日常生活でも繰り返し使うことにより、定着させていく。 ・実験・観察等では、理科の見方・考え方をを使って追究が進められるよう、仮説を立てて取り組めるよう指導を工夫する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○空気でつぼみの玉が飛ぶ仕組みを理解できている。玉が飛ぶまで閉じ込められた空気を押し縮めていく様子をよく観察して結果をまとめることができた成果が表れている。 ●温められた空気の動きと、エアコンの吹き出し口の向きとの関連等、生活と結びつけて考えることに課題が見られる。	・今後も見通しをもって観察・実験等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。 ・目に見えない圧力変化を、体積変化や手ごたえを手がかりに比較することによって、視覚化や体感して分かるようにするため、実験の方法や手順を確認する指導を継続していく。 ・学習で扱っていない課題に対して、科学の見方をはたらかせて現象をとらえる上での要素が発想できるよう、日常生活で起こる科学的な現象について関心がもてるような指導を工夫する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○関節について理解している。自分でその部位の動きを体感したり、日常生活や運動時に意識させたりして捉えさせた成果が表れている。 ●動物の越冬について、結果を比較して考察することに課題が見られる。	・今後も見通しをもって観察・実験等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。 ・理科の学習で使われる用語については、ただ覚えるのではなく指し示す物事について実感を伴って理解する指導を継続していく。 ・生物の四季での様子についてもう一度整理し、気温変化に応じて生活の仕方がそれぞれ異なることを理解できるようにさせる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○1日の気温変化が晴の日と雨の日によって異なることを理解できている。観察や実験したことを表やグラフに表して比較し、特徴を自分の言葉でまとめることを繰り返してきた成果が表れている。 ●月の見える位置が時間経過とともにどのように変化するかを予測することに課題が見られる。	・今後も見通しをもって観察・実験等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。 ・気温変化と天候等複数の事象の関連を表し比較して思考することができているため、日常の事象を多面的にとらえて表現する指導も継続していく。 ・天体の動きについてその時々様子や位置は分かるので、時間を変えて複数回観察して比較し、変化を理解できるようにする。

宇都宮市立〇〇〇小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」で肯定的な回答をした児童の割合が100%と県の平均より高く、ハンドサインを活用して自分の考えを比較しながら聞くことの指導を続けてきたことの成果である。今後も児童が意見をつなぎ合って課題解決できる授業展開に努めていきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の設問に対して肯定的な回答をした児童の割合は県の平均より高く、授業において課題を解決しようとする姿勢が育っている。今後も一人ひとりの意見を大切にしながら、児童が質問をしやすい授業の雰囲気作りに努めていきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習や復習をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」等の設問に対して肯定的な回答をした児童の割合が県の平均を大きく下回っている。このことから家庭での学習習慣が身に付いていない児童が多いことが分かる。今後は、宿題の内容を充実させたり家庭学習の内容を示したりすることで、家庭における学習習慣の定着を図りたい。また、テレビや動画の視聴時間やゲームの時間を減らして家庭学習の時間を増やしていけるよう時間の使い方を見直したり、学習や遊びに関する約束事を決めたりするなど、児童および保護者への啓発を行いたい。

●「国語・算数・理科・社会の学習は好きですか」の設問に対して、それぞれの教科で肯定的な回答をした児童の割合は県の平均を下回っている。このことから、学習意欲がさほど高くないことが分かる。今後は、学年の学習内容の基礎基本が定着するよう丁寧に指導するとともに、全学年までの既習事項を繰り返し復習する機会を設けていきたい。

宇都宮市立〇〇〇小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	・興味を高める導入や課題提示の工夫 ・体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入 ・自力で課題解決にあたる時間の確保 ・ペア学習、グループ活動など最適な学び合いの場を設定し、対話による課題解決の場の工夫 ・ICT機器や1人1台端末、図書等の効果的な活用	○4・5年生ともに、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と肯定的に回答している児童の割合が高い。友達の話や意見に関心をもち、話し合い活動が行われていることがうかがえる。 ○4・5年生ともに、「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と肯定的に回答している児童の割合が高い。児童が「なぜ学ぶのか」という目的意識を明確にもち、知的好奇心や学習意欲が高いことがうかがえる。学習問題の設定や発問において、実際の社会や生活のどのような場面で役立つのかを具体的に示しながら授業に取り組んできた成果であると考えられる。 ○4年生において、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」と肯定的に回答している児童の割合が高い。自ら課題を見つけて解決しようとする自律的な学習態度が育っていることがうかがえる。
分かる授業を目指した授業力の向上	・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル（つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる）」を取り入れた授業の実施 ・児童への言葉掛け、学習方法、教材、AI型学習ドリルなど、個に応じた支援の工夫 ・課題提示、教材提示、発問の工夫（特別支援教育の視点を取り入れる。） ・児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上 ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明記し、授業の流れや学びが見えるノート指導の工夫	○4・5年生ともに、「授業の中で、目標（めあて・ねらい）がしめされている。」「授業を集中して受けている」と肯定的に回答している児童の割合が高い。課題解決型の授業に集中して取り組んでいる児童が多いことがうかがえる。 ○4・5年生ともに、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」「先生は学習のことについてほめてくれる。」と肯定的に回答している児童の割合が高い。個に応じた支援が工夫されていることがうかがえる。 ○4年生において、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」と肯定的に回答している児童の割合が高い。児童が学んだことを整理し、自分の学びを客観的に見つめ直す機会が確保されているとともに、児童自らの理解度や課題を把握する力が育ち、自分の思考や行動を客観的に振り返ることができていることがうかがえる。

基礎学力の定着と家庭学習の習慣化	・各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方、発言の仕方などの繰り返し指導 ・個人差に応じた適切な分量・内容の宿題、自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化 ・学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動	○4・5年生ともに、「家で、学校の宿題をしている。」「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」「学校の宿題は、自分のためになっている。」の設問について、ほぼ全員が肯定的に回答している。個人差に応じた適切な分量・内容の宿題により、宿題が習慣化されていることがうかがえる。 ●4・5年生ともに、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と回答している児童の割合が高い。また「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意である。」と回答している児童の割合が低い。自分の考えをもち、まとめて表現することに課題があることがうかがえる。話型やキーワードを提示したり観点を提示したりするなど、考えをまとめて表現するための支援を行っていく。 △「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答している児童の割合は、5年生は35%程度、4年生は50%程度であり、宿題以外の家庭での学習習慣に課題が見られる。家庭学習の内容を示したり、学習意欲を高めるための声掛けをしたりするなど、家庭と連携しな
-------------------------	--	--